

お城を中心としたまちづくり計画（基本方針及び方向性）について

平成 21 年 2 月 16 日
都 市 整 備 部

1 計画の目的について

本市を取り巻く経済や社会状況は大きく変化しており、効率的で持続可能な、コンパクトな社会づくりを進める必要から、中心市街地の活性化を促すため、交流人口を増やし、定住人口の確保に結びつくまちづくりが求められており、なかでも、盛岡城跡を中心とした地区の役割は重要なものとなる。

本計画は、城下町盛岡の原点であり、市街地の核である盛岡城跡を中心とした地区において、史跡の保存整備と都市公園整備との調和のもと、歴史文化施設や桜山神社周辺地区などの整備を図り、都市と美しい自然の調和、並びにお城の風格や城下町の情緒など地区の特性を活かすなど、総合的なまちづくりを通じて都心の魅力を高め、地区の活性化を促すことを目的としている。

2 これまでの経緯について

お城を中心とした地区のまちづくりに関しては、これまでに市民等から数々の意見をいただいております。特に岩手公園開園 100 周年(平成 18 年)を契機として関心が高まってきている状況にある。また、これまでの市議会における質疑において、「今後策定を進めることとしている盛岡城跡を中心とした将来のまちづくりの検討において、史跡との共存を前提とした魅力ある公園整備を目指し、歴史文化施設や桜山神社周辺の整備についても方向性を見出していきたい」と答弁している。

これらを受け、まちづくり計画の策定を図るため、平成 19 年 6 月に庁内の職員による組織(ワーキンググループ)を立ち上げて検討を重ね、まちづくりの計画素案(ビジョン)を作成し、平成 20 年 2 月 25 日の庁議において、まちづくりの方向性や将来像について(第 1 章から第 3 章)協議したところである。また、平成 20 年度は、「お城を中心としたまちづくり計画」の実施計画(第 4 章)の具体化に向け、市民の意見を反映するため、平成 20 年 7 月に「お城を中心としたまちづくり懇話会」を設置し、これまで開催した 3 回の懇話会において、まちづくりの方向性について多種多様な意見を頂いている。

3 計画の概要について

－ 1 章 計画の目的

お城を中心として都心の魅力を高め、地区の活性化を促す

－ 2 章 まちづくりの対象地区とその方向性

－ 3 章 まちづくりの将来像

「お城をシンボルとした、風格と賑わいのある魅力都心」
～お城からはじまるまちづくり～

－ 4 章 まちづくりの実施計画（計画期間と事業計画）

4 本計画に対する庁外懇話会から出された、まちづくりの方向性について
お城を中心としたまちづくり懇話会（計3回開催）における主な意見

◎お城を中心としたまちづくりの方向性

- ・ 盛岡にとって「本物」を追求することは大事なことであり、そうした中でお城というのは極めて貴重なものである。
- ・ 「ひと」・「もの」・「時間」・「施策」・「交流」・「文化」など、お城と関わりをもつ、様々な要素について、「つながり」を持たせた展開をしていくことが必要である。

◎計画の持続性について

- ・ 事業の成果、市民や観光客などの利用者のニーズに柔軟に対応するためには、計画を固定的なものとするのではなく、様々な情報を吸収しながら計画を「育てていく」いくことが必要である。

◎樹木の植栽・維持管理計画について

- ・ ヒマラヤシダを含めた公園の樹木は、メリハリのある樹木の伐採・育成を検討し、淘汰していく必要がある。

◎桜山参道地区のまちづくりについて

- ・ 桜山参道地区については、調査や状況を見ながら進めなければならない。しかしながら、「そこにあった人の暮らし」、あるいは「今もあり続ける人の暮らし」、あるいは「人間ありき」、を位置づけた上で考えてもらいたい。

◎（仮）盛岡市歴史文化施設について

- ・ 歴史文化施設については、「地元の人たち」が楽しめる場所にして欲しい。それであってこそ、観光の人たちも喜べるという視点を大事にして欲しい。

5 今後の進め方について

本計画（案）は、中心市街地活性化基本計画（平成20年7月9日認定）との関連が深いことから、連携を図るとともに、市民意見を聞きながら、実現性のある計画の策定を進めることとする。

平成21年3月～4月 実施計画（案）の策定

5月 計画（案）の供覧および市民意見の聴取

7月 計画の策定

平成 21 年 2 月 16 日
都 市 整 備 部

お城を中心としたまちづくり計画 【基本方針及び方向性】



平成 21 年 2 月
盛 岡 市

第1章. まちづくり計画の基本的な考え方

－1. 計画づくりの背景と目的

盛岡のまちづくりは、十六世紀末の盛岡城の築城と、お城を中心に城下町が開かれたことに始まります。

明治に至り城郭は取り壊され、今では県都として様々な都市機能が集積する近代的な都市に変貌を遂げましたが、その中心には常にお城が在りました。

お城は公園となり、また国から史跡の指定を受け、訪れる人々に往時を偲ばせる、憩いと安らぎの都市公園として親しまれています。

しかし、本市を取り巻く経済や社会状況は大きく変化しており、人口減少や少子高齢化、地球環境問題への対応や資源の制約などのため、効率的で持続可能な、コンパクトな社会づくりを進めなければならない状況にあります。

こうした中、盛岡広域生活圏及び盛岡都市圏の主要都市として、地域の賑わいや活力を維持するためには、中心市街地の交流人口を増やし、定住人口の確保に結びつくまちづくりが求められており、特にお城を中心とした地区の役割は重要なものとなります。

これまでに、地区のまちづくりに関しては、市民や市議会、並びに市民活動団体等から数々の意見をいただいております。特にも岩手公園開園100周年(平成18年)を契機に、まちづくりについての関心が高まっています。

本計画は、城下町盛岡の原点であり、市街地の中核的な位置にあるお城を中心とした地区において、史跡の保存と都市公園整備との調和のもと、歴史文化施設や桜山神社周辺地区などの整備を図り、都市と美しい自然の調和、並びにお城の風格や城下町の情緒など地区の特性を活かすなど、総合的なまちづくりを通じて都心の魅力を高め、地区の活性化を促すことを目的としています。

計画の目的：お城を中心として都心の魅力を高め、地区の活性化を促します

－2. 全国の城下町における、まちづくりの動き

城下町に由来を持つ都市の中心部には、様々な都市機能が集積し、また長い歴史の中で地域文化や伝統が育まれてきたことから、現在でも往時の風格を残した「地域の顔」とも言うべき地区が残されています。

しかし、現代の社会経済は急速に変化しており、市街地中心部の空洞化が進み、都市の活力が失われつつあり、環境にやさしく将来にわたって持続可能な、賑わいのあるまちづくりが求められています。

また全国の都市において地方色が薄れつつある中、まちの原点を見つめ直し、城下町ならではの伝統や文化を活かすなど、こだわりと個性のある、まさにお城を中心としたまちづくりが求められつつあります。

3. 計画の対象地区

対象地区の設定については、お城を中心に次の2つのエリアで構成しています。

①史跡・公園エリア

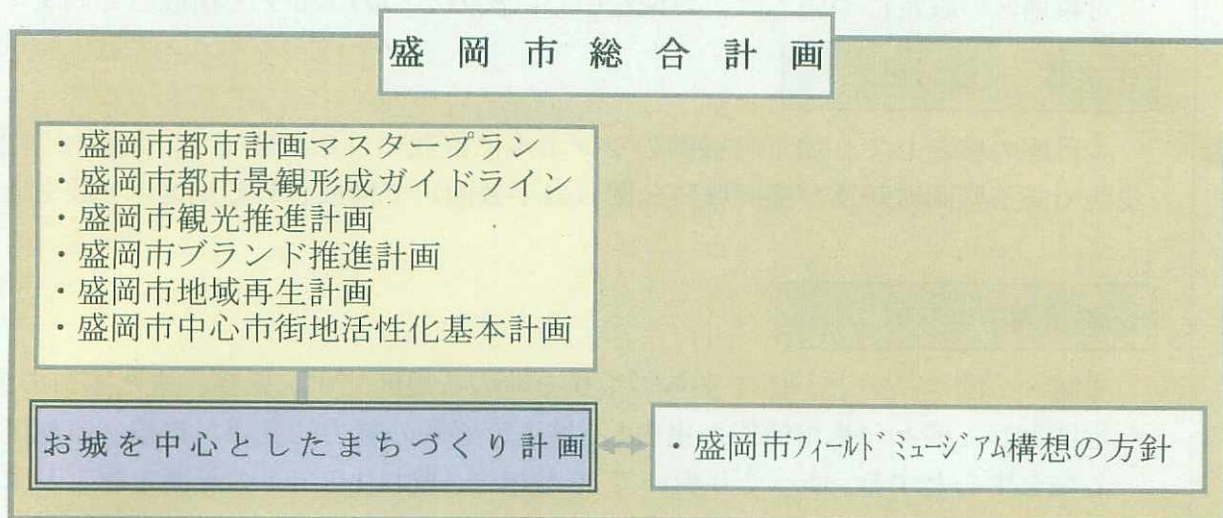
本計画の核として、城下町盛岡のシンボルに位置づける地区です。範囲は国指定の史跡である盛岡城跡及び盛岡城跡公園（岩手公園）で構成される地区としました。

②お城周辺エリア

史跡・公園エリアと一体でまちづくりを進める地区です。県都、また本市の中核的な地区として様々な都市機能が集中し、城下町盛岡の魅力的資源が集積する地区です。お城を中心とする、ゆっくり歩いて30分ほど（概ね1km）の範囲を想定しました。



－ 4. 計画の位置付け



－ 5. まちづくりに関する本市の計画等

■ 本計画に求められる、まちづくりの基本的な方向性

・ お城を中心としたまちづくりのキーワード

お城がもつ
求心力の回復

風格のある
城下町の魅力

おもてなしの心で
賑わいのまち

公共交通が便利で
まち歩きが楽しいまち

都市と自然が調和した
美しいまち

伝統と文化が
継承されるまち

観光・定住に
選ばれるまち

交流と協働
情報発信のまち

注記：本計画における「お城」や「盛岡城」の表現については、石垣やお堀など城郭の遺構を意味するものであり、いわゆる天守閣や櫓などの城郭建築を示すものではありません。

第2章 まちづくりの現状と課題等について

－1. 中心市街地の現況

人口減少・超高齢社会を迎えようとする今日、全国の都市では中心市街地の活性化とともに、コンパクトなまちづくりが求められています。

盛岡市中心市街地活性化基本計画から、本市の中心市街地の様子をうかがうと、観光が通過型へ変化しつつある中、商店数は減少傾向に転じ、売場面積や年間販売額が減少とともに空き店舗が増加する傾向にあります。

事業所数・従業者数が全市的に減少する中で、中心市街地は減少幅が大きく、各種産業における中心市街地の占める位置が低下しています。

また自動車に関連しては、主要幹線道路で交通量が減少する一方、朝夕の交通渋滞は解消されていないほか、駐車場整備を求める声が多い状況にあります。

さらに、歩行者・自転車交通量については減少する傾向にあります。

(桜山神社周辺地区の現況)

地区は、国指定の史跡内にあり、都市計画に定められた公園でもあります。

地区の中央には桜山神社の参道があり、戦後その周辺に商店街ができました。

地区は、本市の主要な商店街である、大通、肴町、中ノ橋通の中間にあり、また参道の延長上には大手先と本町通の商店街があります。

地区の商店街は飲食店が多く、お城のお堀に囲まれ、地区ならではの雰囲気があり、老朽化した建物が密集し、外観は一体の建物が並んでいるように見えます。

－2. まちづくりへの市民の意見

この項では、これまでに寄せられた意見から本計画に関連するものをまとめました。

- (1) 都市計画マスタープラン ～地域別構想【中心地域】より
- (2) 盛岡市フィールドミュージアム構想の方針への意見
- (3) 公園の整備に関して寄せられた意見
- (4) 岩手公園の愛称募集に寄せられた意見
- (5) 岩手公園愛称検討懇話会の意見
- (6) 岩手公園開園 100 周年記念シンポジウム

－3. 市議会における質疑(要旨)

ここでは、盛岡城跡公園とその周辺地域に関する質疑をテーマ毎にまとめました。

- (1) 公園やまちづくりの将来ビジョンについて
- (2) 歴史文化施設について
- (3) 桜山神社周辺地区について
- (4) お城の建物などの復元について
- (5) 盛岡城跡公園の整備について

－ 4. まちづくりの課題の整理

ここでは、お城を中心としたまちづくりに関する市民等の意見、市議会における質疑などをふまえ、お城を中心としたまちづくりに関する課題を抽出しました。

①史跡・公園エリアの課題について

●公園の整備と活用について

- ・城下町盛岡のシンボルとして、歴史性を踏まえた方向性を見出す。
- ・子供から高齢者まで、いつでも誰もが安心して憩える公園づくり。
- ・お城を「本市の最大の観光資源」として捉える。
- ・城郭建築などの資料収集の方策の検討。
- ・お城の歴史や由来、施設や見所の順路の情報提供による、来園者の利便の向上。
- ・市民団体等が主催する、地域活性化イベントの継続や強化。

●景観対策について

- ・お城を中心とした地区ならではの景観づくり。
- ・お城からの岩手山などの眺望の確保。

●歴史文化施設とまちづくりについて

- ・生涯学習による、地域への理解と愛着の向上。
- ・観光や交流の拠点となる施設づくり。
- ・立地と周辺環境を活かした展示活動の展開。
- ・中心市街地の活性化と本市全体の活力の向上につなげる展示活動。

●桜山神社周辺地区のまちづくりについて

- ・地区の家屋などの防災等、短期的な課題の解消と、中期的な課題としての将来像の検討。
- ・国指定の史跡である、地区の特性を活かしたまちづくり。
- ・歴史文化施設と地区との連携による、観光まちづくりの検討。

②お城周辺エリアの課題について

●地域の賑わいや活気について

- ・ 中心部の都市機能など、ストックの利活用によるコンパクトなまちづくり。
- ・ まちなかの居住人口を増やし、多様な世帯と幅広い世代によるまちづくり。
- ・ まちなかの歩行者や自転車の通行を増やし、賑わいの回復を図る。
- ・ 空き店舗が増加する中、これを利活用する方策。
- ・ 城下町である盛岡の地域特性を、積極的に活かしたまちづくり。
- ・ 盛岡の歴史や観光など、案内や情報提供の拠点づくり。
- ・ 地域特性を活かしたイベントの継続と、おもてなしによる集客の創出。

●まちなかの景観づくりについて

- ・ 地区ならではの魅力的な景観づくり。
- ・ 岩手山の眺望を回復するための取り組み。
- ・ 城下町の面影と清流中津川、魅力の相乗効果によるピーアール。
- ・ 中津川と盛岡城跡公園とが、一体のステージとなるような活用策。

●まちなかの観光や居住について

- ・ 観光のスタイルが通過型となる中、まちなかの交流人口の確保。
- ・ まちなか居住を促進するピーアールが必要。
- ・ まちづくりを支える、新旧住民や商店街などのコミュニケーションの促進。
- ・ 多様な分野が連携し、役割を分担しあう、市民等が主体のまちづくり。
- ・ 城下町盛岡らしさを活かしたイベントの開催と、魅力の情報発信。

●まちなかの交流の促進について

- ・ 観光や買い物、通勤など市街地中心部へのアクセス性の向上。
- ・ 盛岡駅からお城まで「導線」を整え、まちなかへの交流人口の誘導。
- ・ 四季を通じてまちなか歩きが楽しめる、歩行者優先のまちづくり
- ・ 自転車と公共交通が、気軽に利用できるまちづくりが必要。

第3章 まちづくりの将来像

①史跡・公園エリアの方向性

このエリアにおいては、公園づくり・お城の景観・歴史文化遺産の利活用・お城の情緒と賑わいの四つをキーワードにまちづくりの方向性をまとめました。

1. 城下町盛岡のシンボルとなる公園づくり

- ・盛岡のシンボルとして、親しみと誇りの拠点となる公園づくり
- ・お城の歴史や由来、園内の案内など、分かりやすい公園づくり
- ・お城ならではのイベントの開催による、交流と賑わいの公園づくり
- ・公園施設の充実により利便性を高め、安心して憩える公園づくり

2. お城らしい風格ある景観づくり

- ・お城の風格と自然環境を活かした、魅力的な景観づくり
- ・お城から、岩手山などの眺めを大切にした眺望景観づくり

3. 歴史文化遺産の継承と、学びの拠点づくり

- ・歴史的・文化的背景を活かした都市型ミュージアムづくり
- ・お城と施設が一体となった新たな観光スポットづくり
- ・中心市街地で展開する「城下町フィールドミュージアム」づくり

4. 人々が集い、情緒と賑わいのまちづくり

- ・参道を軸に、史跡を活かした情緒と和風感あるまちづくり
- ・歴史文化施設と桜山神社周辺地区が連携した観光まちづくり
- ・桜山神社と周辺地区の一体感による、賑わいのあるまちづくり

②お城周辺エリアの方向性

このエリアにおいては、都心と城下の魅力・都市の景観・共生と賑わい・人々の交流などの、四つをキーワードにまちづくりの方向性をまとめました。

1. 地域の魅力を活かし、城下町盛岡の中心となるまちづくり

- ・城下町盛岡にこだわった、個性的で魅力的なまちづくり
- ・お城の歴史や旧町名など、伝統と文化を伝えるまちづくり

2. お城周辺エリアならではの、景観まちづくり

- ・城下町盛岡らしい風格あるまちづくり
- ・公園と中津川が、一体で風景となるまちづくり

3. 共につくる、賑わいのあるまちづくり

- ・地域が一体で取り組む、暮らしに選ばれるまちづくり
- ・城下町盛岡らしい魅力の情報発信と、交流を生み出すまちづくり

4. 交流人口の誘導と回遊性を高めたまちづくり

- ・交通アクセスが良いまちづくり
- ・まち歩きが楽しめて、歩行者に優しいまちづくり
- ・自転車と公共交通が、気軽に利用できるまちづくり

めざす将来像：お城をシンボルとした、風格と賑わいのある魅力都心
～お城からはじまるまちづくり～

第4章 まちづくりの実施計画

ここでは、先章で表した計画の基本的な方向性をもとに、まちづくりの具体的な実施計画について、エリアごとにまとめ明らかとします。

1. 計画の期間

まちづくりに関しては、長期的に取り組むこととなりますが、具体的な事業計画に関しては、個々の事業を短期的に取り組みながら、その成果を中長期的なまちづくりの将来象へ結びつけていける継続性を持たせた、まちづくりを実践していくこととします。

まちづくり計画の将来像

お城をシンボルとした、風格と賑わいのある魅力都心
～お城からはじまるまちづくり～



「短期的な事業計画」(平成21年度から平成25年度)
現時点で早急に取り組まなければならない課題について、
概ね5年以内に事業化に取り組む。

「中期的な事業計画」
すぐに解決困難であっても、将来像を目指すために中期的
な取り組みを行うための実施計画とし、概ね10年以内に
実施を想定する。

「長期的な事業計画」
本計画の目指すまちづくりの将来像の実現のために長期的
に継続して取り組むとともに、実現に向けて常に議論を重ね
ていく。

—2. まちづくりの8つの基本方針と方向性

史跡・公園エリア

1 城下町のシンボルとなるまちづくり

- (1) 盛岡のシンボルとして、親しみと誇りの拠点づくり
- (2) お城の歴史や由来、園内の案内など、分かりやすい公園づくり
- (3) お城ならではのイベント開催による、交流の場と賑わいづくり
- (4) 施設の充実により利便性を高め、安心して憩える公園づくり

2 お城らしい風格ある景観づくり

- (1) お城の風格と自然環境を活かした魅力的な景観づくり
- (2) 眺望景観づくり

3 歴史文化遺産の継承と学びの拠点づくり

- (1) 歴史的・文化的背景を活かした都市型ミュージアムづくり
- (2) お城と歴史文化施設が一体となった新たな観光スポットづくり
- (3) 中心市街地で展開する「城下町フィールドミュージアム」づくり

4 人々が集い、情緒と賑わいのまちづくり

- (1) 参道を軸に、史跡を活かした情緒と和風感あるまちづくり
- (2) 歴史文化施設と桜山参道地区が連携した観光まちづくり
- (3) 桜山地区と周辺地区の一体感による賑わいのあるまちづくり

お城周辺エリア

5 地域の魅力を活かし、城下町盛岡の中心となるまちづくり

- (1) 城下町盛岡にこだわった、個性的で魅力的なまちづくり
- (2) お城の歴史や旧町名など、伝統と文化を伝えるまちづくり

6 お城周辺エリアならではの景観まちづくり

- (1) 城下町盛岡らしい風格あるまちづくり
- (2) 公園と中津川が、一体で風景となるまちづくり

7 共につくる、賑わいのあるまちづくり

- (1) 地域が一体で取り組む、暮らしに選ばれるまちづくり
- (2) 城下町盛岡らしい魅力の情報発信と交流を生み出すまちづくり

8 交流人口の誘導と回遊性を高めたまちづくり

- (1) 交通アクセスが良いまちづくり
- (2) まち歩きが楽しめるまちづくり
- (3) 歩行者と自転車が安心して移動できるまちづくり

— 3. まちづくりの実現化にむけた実施計画

■ 史跡・公園エリアのまちづくり

1. 盛岡のシンボルとして、親しみと誇りの拠点づくり
(1) 盛岡のシンボルとして、親しみと誇り
ア. 史跡盛岡城跡保存管理計画の策定
イ. 史跡盛岡城跡保存整備事業継続
① 石垣変異調査
② 石垣修理工事
ウ. 鶴ヶ池・亀ヶ池の水質改善
① 取水施設整備
② 協働による環境改善活動の推進
エ. お堀の水質管理の基準化
オ. 鶴ヶ池・亀ヶ池の活用の検討（改修）
(2) お城の歴史や由来・園内の案内など分かりやすい公園づくり
ア. 盛岡城跡公園案内板・サイン整備
① サイン計画の策定と整備
② 「うしろに市民が見える」事業展開
③ 社会貢献活動等の協力による案内情報の充実
④ 盛岡城跡公園の拠点としてのサービスセンターの設置
⑤ 公園の正面性の確保
(3) お城ならではのイベント開催による交流の場と賑わいづくり
ア. 盛岡公園城跡（史跡盛岡城跡）の活用
① 各種イベント等との連携による活用
② 彦御蔵の活用（改修）等の検討
イ. 市民協働によるイベントの推進
ウ. 各種団体との連携によるまちづくりの検討
① 市民団体、NPO、企業等からの支援
② お城周辺エリアと連携した活性化策の検討
③ 環境教育プログラム活動の推進
(4) 施設の充実により利便性を高め、安心して憩える公園づくり
ア. 都市公園ユニバーサルデザインの推進
イ. 都市公園整備計画の策定
① 史跡保存管理計画の策定
② 盛岡城跡公園整備計画の策定

2. お城らしい風格ある景観作り	
(1) お城の風格と自然環境を活かした魅力的な景観づくり	
ア. 景観に配慮したお城づくり	
イ. お城らしい景観づくり	
	①ヒマラヤシーダー
	②樹木の維持管理
(2) 眺望景観づくり	
ア. 盛岡城跡周辺の景観計画の策定	
イ. 都市景観形成建築等の指導	
3. 歴史遺産の継承と学びの拠点づくり	
(1) 歴史的・文化的背景を活かした都市型ミュージアムづくり	
ア. 盛岡市歴史文化施設整備事業	
イ. 市民との協働による歴史文化事業の展開	
(2) お城と歴史文化施設が一体となった新しい観光スポットづくり	
ア. 盛岡市歴史文化施設周辺環境整備事業	
(3) 中心市街地で展開する「城下町フィールドミュージアム」づくり	
ア. 中心市街地をフィールドミュージアムの「屋外展示」として活用のための検討	
4. 人々が集い、情緒と賑わいのまちづくり	
(1) 参道を軸とした、史跡を活かした情緒と和風感あるまちづくり	
ア. 桜山参道地区のあり方の検討	
	①実態調査
	②埋蔵文化財調査の実施計画（案）の検討
	③将来ビジョンの策定と情報の共有化
イ. 桜山神社参道地区の整備	
	①整備方法の検討
(2) 歴史文化施設と桜山参道地区が連携した観光まちづくり	
ア. 史跡・公園エリアの活性化策の検討	
(3) 桜山地区と周辺地区の一体感による賑わいのあるまちづくり	
ア. 内丸緑地の活用の検討	
	①内丸緑地の検討
	②お城の正面性の確保

■お城周辺エリアのまちづくり

5. 地域の魅力を活かし、城下町盛岡の中心となるまちづくり

(1) 城下町にこだわった、個性的で魅力的なまちづくり

ア. 大手先・参道地区の歩道整備・電柱類地中化

(2) お城の歴史や旧町名など、伝統と文化を伝えるまちづくり

ア. 既存旧町名由来板の検証と更新

イ. 城下町盛岡のPR

6. お城周辺エリアならではの、景観まちづくり

(1) 城下町盛岡らしい風格あるまちづくり

ア. お城周辺地区の景観誘導

イ. 都市景観シンポジウムの開催

(2) 公園と中津川が一体で風景となるまちづくり

ア. お城と連携した中津川環境保全

イ. 中津川河川敷と盛岡城跡公園の連携利用

7. ともにつくる、賑わいのあるまちづくり

(1) 地域が一体で取り組む、暮らしに選ばれるまちづくり

ア. 「まちなか居住」の推進

(2) 城下町盛岡らしい魅力の情報発信と、交流を生み出すまちづくり

ア. 「映画の街盛岡」の推進

イ. お城周辺エリアの活性化

ウ. つどいの広場管理運営事業

8. 交流人口の誘導と回遊性を高めたまちづくり

(1) 交通アクセスが良いまちづくり

ア. 「まちなか観光」の推進

イ. 盛岡城跡公園への交流人口の誘導方策の検討

(2) まち歩きが楽しめるまちづくり

ア. ビクトリアロード整備事業

イ. 盛岡かわまちづくり事業

ウ. 菜園地区の歩道整備・電柱類地中化整備

エ. 花と緑のガーデン都市づくり

オ. まちなかの遊休不動産の活用と現代版家守による地域再生

(3) 歩行者と自転車が安心して移動できるまちづくり

ア. 歩行者・自転車優先エリア形成による、回遊性の向上と賑わい創出の検討

—4. まちづくりの実施計画の取り組み方針

本計画は、城下町盛岡のお城を中心とした地区に軸足をおいて、望ましい将来の姿を見据えながら、まちづくりの基本的な方向性を示すことを目的としています。

事業の実施にあつては、「ひと」・「もの」・「時間」・「施策」・「交流」・「文化」など、お城と関わりをもつ、様々な要素について、「つながり」を持たせた展開をしていくこととします。

—5. 実現化に向けた段階的な取り組み

まちづくりの方向性としてあげた基本方針を達成させるためには、一つの要素（事業・計画）だけに集中的に取り組むのではなく、個々の要素を連携させながら、段階的にまちづくりをおこなっていく必要があります。

そのためにも、本計画の対象地区において、優先的、かつ、短期的に行なわなければならない課題を整理し、優先事業から着手します。

—6. 実施計画の効果的な推進に向けて

1. 「育てていく」計画

計画が策定され、それぞれの事業を実施していく上で、事業の成果、市民や観光客などの利用者のニーズに柔軟に対応していける取り組みが必要です。

そのためには、計画を固定的なものとするのではなく、様々な情報を吸収しながら計画を「育てていく」いくことを目指します。

2. 計画・地域ビジョンのプロセスと情報の共有

まちづくり計画が策定され、計画の実現化にむけた取り組みが進むことで、市民、地域住民、NPO、企業、行政など、多くの事業主体の関わりが生まれてきます。そのため、まちづくりを円滑に推進するためには、地域の将来ビジョン、整備計画策定、実現化のための取り組み等について、関係者間において、そのプロセスや情報について、共有化を図る必要があります。

3. 協働によるまちづくり

目指す将来像に向けたまちづくりは、行政だけ、もしくは、市民、地域住民、NPO、企業等だけが取り組みを行っていても、効果的な実現化は図られません。市民等と行政が相互の役割について共通認識を持ちながら、協働して、効果的かつ効率的にまちづくりを推進することが求められます。

行政は、計画された事業の実現化や事業主体など関係機関との調整・協議を

行う必要があります。

また、市民、地域住民、NPO、企業等は、行政では補えない部分について、積極的にまちづくりの担い手となることが求められます。

4. 交付金や補助金等の積極的活用

お城を中心としたまちづくりを進めていくために、国の「まちづくり交付金」、
「地方の元気再生事業」などの補助金を活用することにより、事業の早期実現を図ります。

5. 「ゼロ予算事業」による取り組み

厳しい財政状況が続く中、財源ありきの事業だけでなく、地域の景観、歴史、文化、人、観光という地域資源を活かし、地域の創意やまちづくりに対する思いを「知恵」として活かした取り組みを推進していきます。

6. 史跡保存管理計画、公園整備計画の早期策定

盛岡城跡公園を整備していく上で、最優先で行わなければならない「史跡保存管理計画」を策定し、その計画に基づいた「公園整備計画」の早期策定にむけた取り組みが必要となります。

7. 中心市街活性化基本計画・盛岡市観光推進計画との連携

本計画だけでなく、「触れる・感じる・楽しむ 元気なまち『もりおか』」を目指した中心市街地活性化基本計画や「歩いて楽しむまち」を目指した盛岡市観光推進計画との連携を図り、賑わいの創出、交流人口の拡充にむけた取り組みを行っていきます。

8. 懇話会の継続

盛岡城跡公園並びにその周辺地区について、まちづくりに果たす役割と課題の整理や今後の整備計画や賑わい創出に向けた具体的な活用方策等に関して、計画の策定後も継続して、懇話会が計画に対する意見や評価を行ってもらうことにより、持続的な計画の推進を図っていきます。